



## 愛媛グランドチャンピオンシップ2014 開催！

### 新田高校、西野選手 男子単二連覇、二冠

平成27年3月8日(日)に愛媛県総合運動公園体育館で愛媛グランドチャンピオンシップ(第31回愛媛県選抜バドミントン選手権)が開催されました。この大会は、規定の大会で上位に入賞した選手が集う、他県にはあまり実績の無い、愛媛県独特の試合です。小学生から社会人までが一つのトーナメントで開催される、年齢制限無しのに一度のビッグイベントとなります。優勝者には、金のシャトル(後述)が授与されます。

男子単では、西野勝志(新田高校)選手が濱中裕太(RSハマナカ)選手を2-1で破り二連覇を成し遂げました。お互いに一步も譲らない、手に汗握る試合を繰り広げました。また、西野選手は田中大祐(新田高校)選手との男子複でも優勝し、二冠を達成しました。

女子単では、森賀佳奈(川東中教員)選手が原沙稀乃(松山大学)選手との1時間を越える激戦を制しました。女子複では、伊野・蓮沼(新田高校)選手が久枝・伊野(松山大学)選手を倒し、成長振りを見せ付けました。



瀧山副会長の挨拶



開会式の様子 出場する選手達

例年通り、ハイレベルな本大会。特に男子単の準決勝では、社会人同士・高校生同士での対戦カードとなり年代による試合展開・配球の違いや、スピードの違いなどが比較でき、面白い展開になりました。

また、上位入賞者の顔ぶれを見ても分かる通り、男女共に若い選手のレベルが確実に上がってきており、2017年の愛媛国体に向けて着実に準備が整ってきている様に感じられました。各世代の選手達の二年後の活躍を期待します。

次頁には、本試合のトーナメント表の巻末に添付されている『過去の栄冠』の抜粋したものを、優勝者の一覧表にまとめました。

#### 男子複

- 優勝
  - 田中 大祐(新田高校)
  - 西野 勝志(新田高校)
- 準優勝
  - 楠 聖矢(新田高校)
  - 永井 光(新田高校)

#### 男子単

- 優勝
  - 西野 勝志(新田高校)
- 準優勝
  - 濱中 裕太(RSハマナカ)



#### 女子複

- 優勝
  - 伊野 紫惟(新田高校)
  - 蓮沼 紗季(新田高校)
- 準優勝
  - 久枝 りな(松山大学)
  - 伊野 紫菜(松山大学)

#### 女子単

- 優勝
  - 森賀 佳奈(川東中教員)
- 準優勝
  - 原 沙稀乃(松山大学)



# グランドチャンピオンシップ 過去の栄冠

※優勝者のみ 第3回大会の男子単は両者優勝

		男子複		男子単		女子複		女子単	
昭和59年度	第1回	浜中門屋	カットショップダイキ	堀江	西農OB	石田小橋	愛大ク西条バード	石田	愛大ク
昭和60年度	第2回	徳丸川上	西条電業社クラレ	堀江	西農OB	善家兵頭	愛大ク	松岡	松山商大
昭和61年度	第3回	徳丸曾我部	ACT西条松下寿	※徳丸・日野	ACT西条・今治ク	石田小橋	愛大ク西条バード	石田	愛大ク
昭和62年度	第4回	徳丸曾我部	ACT西条松下寿	徳丸	ACT西条	加地重松	西条高	重松	西条高
昭和63年度	第5回	門屋堀江	ダイキ大町農協	日野	今治ク	小橋真木	西条バードクラレ	小橋	西条バード
平成元年度	第6回	佐々木河端	クラレ	堀江	大町農協	佐伯首藤	松羽会チームレオ	田坂	西条高
平成2年度	第7回	佐々木河端	クラレ	河端	クラレ	石田須山	愛大ク双葉	上路	西条高
平成3年度	第8回	浜松日野	四電産業高専ク	武智	四国ガス	小橋石田	西条バード愛大ク	真木	クラレ
平成4年度	第9回	有家宮内	松山大	日野	新居浜	田坂越智	西条高	上田	砥部ク
平成5年度	第10回	有家宮内	松山大	田坂	スマッシュ	佐伯白石	西条バード	伊藤	双葉
平成6年度	第11回	有家宮内	松山大	田坂	スマッシュ	田坂林	松山大	林	松山大
平成7年度	第12回	田坂安永	松山大	安永	松山大	大塚林	松山大	大塚	松山大
平成8年度	第13回	田坂安永	松山大	田坂	松山大	大塚林	松山大	林	松山大
平成9年度	第14回	田坂安永	ハルトノ松山大	田坂	ハルトノ	佐藤大中	松山大	大中	松山大
平成10年度	第15回	武智英治安永圭一	四国ガス	田坂厚司	ハルトノ	春田山田	川東中角野中	山田	角野中
平成11年度	第16回	田坂厚司高橋徹	ハルトノ	田坂厚司	ハルトノ	真鍋佐々木	新西高	山田	角野中
平成12年度	第17回	野田越智	モアスポーツTBC	高橋徹	三菱電機	大中横井	松山大	大條	新東高
平成13年度	第18回	武智英治安永圭一	四国ガス	田坂厚司	イチミヤ	山田三吉	バンドーラ	大條	新東高
平成14年度	第19回	田坂厚司高橋徹	スマッシュハルトノ	高橋徹	ハルトノ	立田あずさ岡崎	松山大	井上	新東高
平成15年度	第20回	安永圭一時原修二	四国ガス	高須賀大輔	新田高	白石和花子小川静香	新田高	小川静香	新田高
平成16年度	第21回	田坂厚司高橋徹	RSハマナカ松山市役所	田坂厚司	RSハマナカ	高岡希奈小川静香	新田高	安藤真里絵	西農高
平成17年度	第22回	田坂厚司高橋徹	RSハマナカ松山市役所	竹本圭吾	RSハマナカ	安藤朋恵安藤加奈江	松山大西農OB	安藤真里絵	西農高
平成18年度	第23回	田坂厚司高橋徹	RSハマナカ松山市役所	竹本圭吾	RSハマナカ	真鍋絵理佐伯綾子	スマッシュ西農OB	久枝ゆい	新田高
平成19年度	第24回	尾田征司佐藤寛倫	尾田水道イチミヤ	佐藤寛倫	イチミヤ	真鍋絵理佐伯綾子	泉川中教西農OB	森賀佳奈	新田高
平成20年度	第25回	田坂厚司高橋徹	RSハマナカ松山市役所	金森優太	新田高	森賀佳奈櫻栄祥子	新田高	森賀佳奈	新田高
平成21年度	第26回	秋元崇志佐野宏太	愛媛大	濱中裕太	愛媛大	大條亜津紗真鍋絵理	こんどう接骨院神郷小教員	大條亜津紗	こんど 接骨院
平成22年度	第27回	渡部克栄大呂健二	新田高	濱中裕太	愛媛大	佐伯綾子白石和花子	イチミヤスマッシュ	大條亜津紗	スマッシュ
平成23年度	第28回	真鍋聡志渡部大吾	松山大	濱中裕太	愛媛大	佐伯綾子白石和花子	イチミヤスマッシュ	山中芹里	中萩中
平成24年度	第29回	東優太吾野文人	新田高	濱中裕太	RSハマナカ	田坂季子倉本梨香	新田高	久枝ゆい	新田高教
平成25年度	第30回	大呂健二米持雄貴	松山大	西野勝志	新田高	久枝りな原沙稀乃	松山大	原沙稀乃	松山大
平成26年度	第31回	田中大祐西野勝志	新田高	西野勝志	新田高	伊野紫惟蓮沼紗季	新田高	森賀佳奈	川東中教員





## グランドチャンピオンシップ 過去の栄冠



グランドチャンピオンシップ、通称グラチャン。  
優勝者のみに贈られる金のシャトルと栄誉。愛媛  
県のバドミントン選手であれば、年齢を問わず目指  
すことのできる本大会。本大会史に名前を刻んだ  
選手の偉大なる記録に焦点を合わせてみました。

昭和59年度の第1回大会を皮切りに、現在まで各年度行われてきた本大会ですが、平成26年度で第31回を迎えました。前頁に示すとおり、数々の選手が優勝に名を連ね、歴史ある大会と言うことがわかります。

男子複では、平成4年度から6年度に、有家選手・宮内選手(当時:松山大学)が三連覇を成し遂げています。翌年からは同じく当時:松山大学の田坂厚司選手・安永圭一選手が同じく三連覇。また田坂選手は平成16年度から18年度においても、高橋徹選手(松山市役所)とのダブルスで三連覇。通算二回の三連覇を達成しています。男子複の金のシャトルを最も多く獲得している田坂選手は現在9個、ついで安永選手、高橋選手ともに6個となっています。

男子単では平成8年度から11年度において、田坂厚司選手(当時:松山大・ハルトノ)が四連覇を、平成21年度から24年度に濱中裕太選手(当時:愛媛大学)が同じく四連覇を達成しています。田坂選手は連覇年度の前後にも四回の優勝を成し遂げています。金のシャトル個人獲得数は田坂選手が群を抜いて8個、濱中選手が4個で、田坂選手を追撃中です。

女子複では、同じペアでの連覇は男子に比べ少ないことがわかります。平成18・19年度に真鍋絵理選手(当時:スマッシュ・泉川中教)と佐伯綾子選手(当時:西農OB)のダブルスが二連覇を達成しています。勢いの有る二人のダブルスは翌年の四国総合で優勝し、全日本総合の予選にも出場されました。また、佐伯選手(イチミヤ)は平成22・23年度には、白石和花子選手(当時:スマッシュ)とのダブルスでも二連覇を達成しています。金のシャトル個人獲得数は、石田選手(当時:愛大クラブ)、佐伯選手、真鍋選手が三者ならんで4個となっています。なお、真鍋選手においては平成11年度の高校時代の優勝もカウントしています。

女子単での最大連覇記録も女子複と同様に二連覇となっています。平成10・11年度には山田紘美選手(当時:角野中)、平成12・13年度には大條亜津紗選手(当時:新居浜東高)、平成16・17年度には安藤真里絵選手(当時:西農高)、平成19・20年には森賀佳奈選手(当時:新田高)、平成21・22年には大條亜津紗選手(当時:こんどう接骨院・スマッシュ)が返り咲き二度目の連覇。金のシャトル個人獲得数は、大條選手が4個、森賀選手が本年度の優勝も含めて3個となっています。

本年度は西野選手(新田高)が二冠を成し遂げました。過去にも単複両方のトーナメントを制した方を紹介します。

男子では昭和61年度に徳丸選手(当時:ACT西条)、さらに翌年度にも二冠し二冠二連覇を達成しています。平成2年度に河端選手(当時:クラレ)、平成7年度には安永選手(当時:松山大学)、平成8・9年度には田坂選手(当時:松山大学)は二冠二連覇、さらに平成11年度と16年度にも二冠を達成。実に4度の二冠を成し遂げています。平成14年度には高橋選手(当時:ハルトノ)、平成19年度には佐藤選手(当時:イチミヤ)、計7名の方が二冠という偉業を達成されています。

女子では昭和59・61年度に石田選手(当時:愛大ク)、昭和62年度に重松選手(当時:西条高)、昭和63年度には小橋選手(当時:西条バード)、平成6年度に林選手(当時:松山大)、平成7年度に大塚選手(当時:松山大)、平成9年度に大中選手(当時:松山大)、平成10年度には本大会最年少二冠記録の山田選手(当時:角野中)、平成15年度に小川選手(当時:新田高)、平成20年度に森賀選手(当時:新田高)、平成21年度に大條選手(当時:こんどう接骨院)、平成25年度に原選手(当時:松山大学)。女子では計11名の方が二冠を達成されました。

今後の愛媛のバドミントン力の底上げにつながるグランドチャンピオンシップ。文字通り愛媛のチャンピオンを決定する歴史有る大会史に名を残された選手に敬意を表します。



# 指導者講習 & 交流会情報

平成27年1月4日(日)に高知県で新年初打ち & バドミントン講習会が開催されました。四国各県から約20名ずつ参加することができるこの講習会は四国では初めての開催でした。

ゲストに元バドミントン日本代表の片山卓哉氏をお招きし、主に身体の動かし方・バランス・体幹についての講習内容となりました。片山氏は、その中でも現在スポーツ界やメディアで注目されている『体幹』を重要視した指導をされました。講習会は初心者にも上級者にも解りやすく、新たな発見を与えてくれる充実したものとなりました。



片山氏と参加者達

アスレチックトレーナーの方にも参加頂き、正しいトレーニング方法や怪我の処置方法を詳しく教えて頂くことができました。講習内容の文章での説明は、非常に難しいですが、口頭での説明は非常に面白くわかりやすい内容となっています。

バドミントンをする時間は少なく感じましたが、それ以上に貴重な話しが聞けた講習だったと思います。2017年に愛媛国体を控えています、選手達のレベルアップの為には指導者の更なるレベルアップも必要不可欠です。平成27年8月にも第二回講習会を開催予定です。クラブチームの指導者の方、子供がバドミントンをしている保護者の方々、是非参加されてみては如何でしょうか。

## 片山卓哉 氏

中央大学卒業後、日本のトップチームNTT東日本の中心選手として、全日本総合ダブルス優勝、全日本社会人ダブルス優勝、全日本実業団大会優勝、日本リーグ優勝、国民体育大会優勝等の輝かしい成績を残す。

自己最高世界ランク: 19位

現在は理学療法士として活動中。書籍も出版しており、YOUTUBEなどにも動画を投稿し活躍しています。